

文教大学情報学部 社会調査 研究報告

東日本大震災とエコ意識

2012年2月

情報学部 広報学科 3年

星野 一樹

目次

第1章	調査研究の概要	2
1.1	調査研究の目的と背景	2
1.2	調査に関する状況	2
1.3	調査研究の方法	5
1.4	成果の概要	6
第2章	調査研究の成果	8
2.1	調査回答者の概要	8
2.2	学生のエコに対する関心	9
2.3	東日本大震災とエコ	11
2.4	エコ行動と目的	14
第3章	まとめと今後の課題	17
	参考文献	17
	単純集計結果	18

第1章 調査研究の概要

1.1 調査研究の目的と背景

わたしたちは地球温暖化や資源不足、地震の被害などの様々な環境問題に直面している。地球温暖化とは、大気や海洋の平均温度の上昇だけではなく、生物圏内の生態系の変化や海面上昇による海岸線の浸食といった、気温上昇に伴う二次的な諸問題も含めて言われている。現在、温暖化が将来の人類や環境へ与える悪影響を考慮して、さまざまな対策が立てられ、実行され始めている。一方で、その対策に要するコストが非常に大きくなるとみられることから、その負担や政策的な優先度等をめぐって国際的な議論が行われている。地球温暖化問題は「人為的なものに起因する気候の変動」という意味での「気候変動問題」と呼ばれることもある。

このような中で生きていくわたしたちは、対して何かしらの対策をしなければならない。私たちの身近な対策、「エコ」というものがある。普段の生活でのエコとして、節電、ごみの分別、エコ用品（マイ箸、エコバッグ、タンブラー）の使用などが挙げられる。そして2011年3月11日に起こった東日本大震災。観測史上最大のM9.0を観測し、膨大な被害を日本にもたらした。この地震によって、電力不足などにみまわれ、国民のエコ意識をより煽ったのではないかと考えられる。

学生がどの程度、このエコに対しての関心があり、どの程度実施をしているか。また、関心・実施をさせる要因は何かを調査したい。

1.2 調査に関する状況

(1) ネットマイル調査

ネットマイルという会社が2011年2月に、環境とエコ意識についての調査を行った。回答者は幅広い年齢層・日本全国の400人で、これは東日本大震災前の調査である。

「環境問題、あるいは環境問題によって起こりうる事柄のなかで、気になるものがあれば教えてください。」という質問を複数回答でおこなったところ、全体では1位が「地球温暖化」67.5%、2位が「オゾン層の破壊」51.0%、3位が「異常気象」49.3%、4位が「食糧危機」45.5%、5位が「自然破壊」43.8%で

あった。2010年夏の記録的な猛暑の体験や、世界的な異常気象などの影響による食品価格の高騰に見舞われている日本の現状を反映した結果といえそうだ。

「エコに関心がありますか。」という質問に対して、関心があると回答した人が17.5%、どちらかといえば関心がある61.0%、あまり関心がない17.0%、関心がない4.5%であった。回答者の約80%が少なからずエコに関心を持っているようだ。

「エコロジーに関する事柄について、あなた（あるいは、あなたの家族）の日頃の行動を教えてください。」という質問を10項目にわたっておこなった。「必ず取り組んでいる」

と「頻繁に取り組んでいる」の回答率をあわせてみると、全体では「ゴミの分別を徹底する」の回答率が75.7%と最も高く、次いで「洗濯物は乾燥機を使用せず天日干しする」が73.2%、「食事の食べ残しをしない」が67.9%と続いた。エコバッグも60%以上が持ち歩いているようだ。

「あなた自身がエコロジー活動に取り組む最たる理由は何ですか。」という質問をおこなった。日本の調査結果では、全体では1位が「環境にいいことをしたいから」20.8%、2位が「お金の節約につながるから」20.5%、3位が「子どもや孫、次の世代のため」19.8%、4位が「取り組むべきという使命感から」12.8%、5位が「習慣だから」11.5%であった。タンブラーなどを持ち歩く理由は、環境・節約に有効であるという両面性を持つ。これは、学生に対しても同じことが言えるだろう。

「あなた自身の環境問題についての知識や、エコに対する意識、取り組み状況は周り比べて、それぞれどのくらいのレベルだと思いますか。」という質問をおこなった。回答者が考える自分自身のエコレベルは、「かなり高い」4.8%、「やや高い」21.2%をあわせた“高い”が26.0%、「普通」が53.7%、「やや低い」14.5%、「かなり低い」5.8%をあわせた“低い”が20.3%であった。普通が最も多く、“低い”より“高い”が多いことから、回答者のエコに対する自己意識はやや高いといえる。

「50年後の地球環境はどのようになっていると思いますか?」という質問をおこなった。「今よりずっと改善されていると思う」4.5%、「どちらかといえば今より改善されていると思う」31.8%、「どちらかといえば今より悪化していると思う」47.2%、「今よりずっと悪化していると思う」16.5%であった。このことから、環境に対してエコ活動の水準が高いにもかかわらず、ネガティブな考えの回答者が多かった。

この調査結果から、回答者のエコへの関心・活動は割と高い水準にあるといえる。しかし、この後東日本大震災が起こり、被害を多数被った。資源不足、国民の買い占めや、電池品切れ・ガソリン供給不足による生活への不安。さらに、計画停電という異例の政策まで起きてしまった。この地震による直接的被害はもちろん、2次的被害も膨大なものであった。これにより、日本国民のさらなるエコが活発化したと予想される。この中で、学生の層がいかに環境を考え、行動しているかを調査したい。

(2) 環境に対する意識・行動、環境要因

環境意識

環境 要因

環境行動

環境意識

- ・地球温暖化・資源不足などの環境問題への危機感

環境行動（エコ行動）

- ・節電（コンセントを抜く、家電のながら使用、空調設備・・・）
- ・マイ箸利用
- ・エコバッグ使用（レジ袋断る）
- ・タンブラー使用（ペットボトルの再利用）
- ・歩く、公共の乗り物の利用
- ・ごみの分別
- ・食べ残しをしない
- ・空調設備の設定温度
- ・その他エコへの工夫

それらに影響すると考えられる要因

- ・住む環境（育った環境・出身地）
- ・環境に対しての意識・関心
- ・教育
- ・地震などの天災の被害を受けたかどうか
- ・専攻している学問（何学部か）
- ・金欠・節約
- ・男女・血液型

（３）調査に向けた仮設

- ・震災との距離感が近い人ほどエコ行動の割合が高い。

揺れ、倒壊、計画停電、帰宅難民、日用雑貨の不足などの直接的被害を受けた人のほうがエコ行動の割合が高い。

出身地が西日本より東日本のほうがエコ行動の割合が高い。

- ・環境に関する授業やイベントに参加したことのある人はエコ行動の割合が高い。
- ・親から「もったいない意識」のしつけがあった人はエコ行動の割合が高い。
- ・ニュースの視聴時間が長い人ほどエコ行動の割合が高い。
- ・住んでいる地域にゴミの分別がある人はエコ行動の割合が高い。
- ・男性より女性のほうが主婦的で節約指向である。
- ・田舎の人よりはむしろ都会の人のほうが節約指向である。
- ・情報学部・健康栄養学部より国際学部のほうがエコ行動の割合が高い。（国際学部は文教ボランティアズの構成員が多く、グローバルについて学んでいるため）

1.3 調査研究の方法

(1) 新抄経緯

5月 調査テーマ討論

6月 調査テーマ決定・調査テーマ具体化

7～10月 授業内討論・調査票作成

10月 最終討論・調査票完成・学内での調査実施・回収

11月 集計・単純集計結果報告

12月 報告書作成

(2) 調査の概要

a. 調査の意図

- ・学生のエコに対する関心はどの程度か
- ・東日本大震災とエコ意識に関係があるか
- ・どのような要因（教育・環境イベント参加）がエコ意識・行動に関係するか

b. 調査対象層

文教大学湘南キャンパス学生

c. 調査方法

2つの授業時間内に配布・回収

d. 主な質問項目

- ・エコに対する関心度
- ・エコ行動の度合い
- ・震災の被害

e. 配布（依頼）回収数

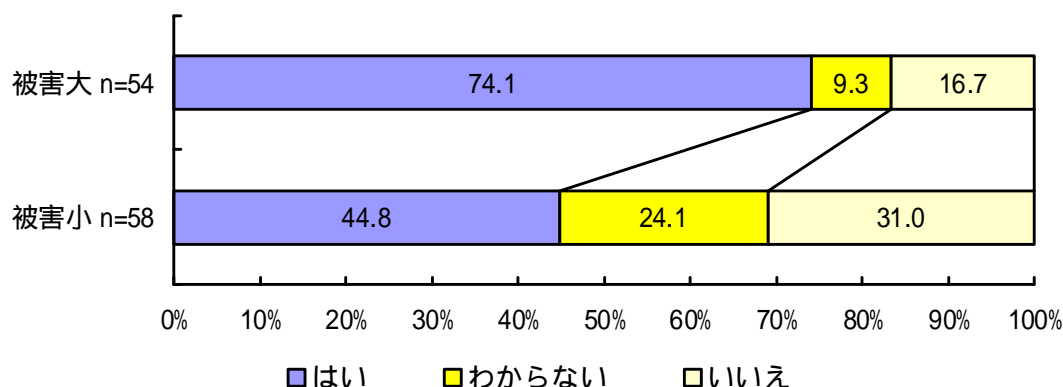
交通事業論 90

制作管理手法 23

1.4 成果の概要

(1) 主な成果

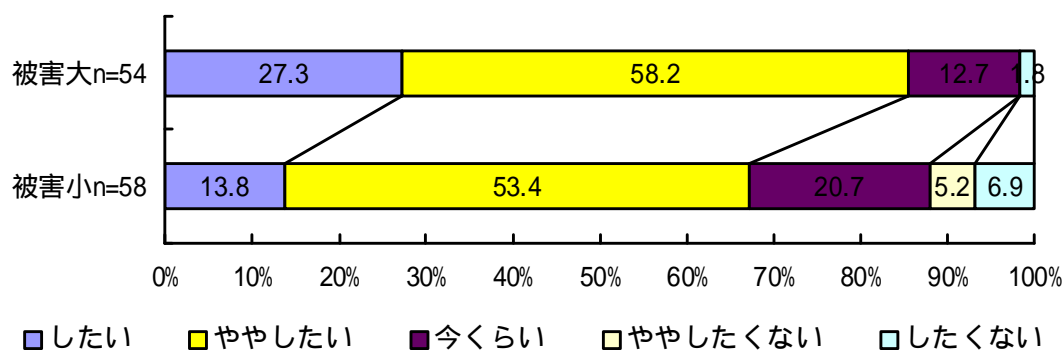
図1-4-4 震災の被害とエコ意識の高まり(2乗:p=0.006)



被害大グループと被害小さいグループ毎に、震災後エコ意識が高まったかどうかの集計を行った。震災の被害が大きい人で、震災後エコ意識が高まったと回答した人は約74%であった。また、震災の被害が大きい人で、震災後エコ意識が高まっていないと回答した人は約17%であった。震災の被害が小さい人で、エコ意識が高まったと回答した人は約45%、高まっていないと回答した人が約31%であった。震災によって回答者の約80%が計画停電を体験したりと、不便をすることでエコに対する意識が高まったようだ。そして、震災の被害は、学生たちのエコ意識を大幅に高めたと言える。

次に被害大グループと被害小グループ毎に、今後さらに積極的にエコ活動をしたいかを集計した結果を図1-4-2に示す。被害大グループで今後積極的にエコ活動をしたいと答えた人は約86%であった。被害小グループよりも被害大グループのほうが今後のエコ活動に対して積極的な姿勢が見られた。震災はエコ活動の活発さをもたらすものと理解出来る。

図1-4-2 震災被害と今後のエコ活動活発化



(2) その他の成果

- ・学生の約 8 0 % はエコに対して関心を持っている。
- ・学生のエコ意識は、震災後、より高くなっている。
- ・食べ残しをしない、ごみの正確な分別、コンセントを抜くなど、気軽にできるエコ活動を行っている人が多かった。しかし、タンブラーやマイ箸などは行っている人は少ない。
- ・エコ行動の目的として、環境の配慮のためかお金の節約のために分かれることが分かった。また、環境の配慮のためと答えた人は、地球温暖化により危機を感じている。
- ・今後に関して、より積極的にエコ行動を行おうという意向が見られた。

第2章 調査研究の成果

2.1 調査回答者の概要

なお回答標本は無作為抽出で作成していないために、母集団から見て標本に偏りを生じる可能性がある。そこで、回答者の分布を、表2-1-1で確認しておく。表2-1-1の性別の分布ではキャンパス全体としては男女比はほぼ半々であるが、回答者では男子が4割弱、女子が6割今日となっており、少し偏りがある。これらの偏りは、回答者全体に関する分布にはそれなりの影響を与える可能性があり、解釈時には注意が必要である。しかしクロス集計やグループの平均などの層化を行った集計では、影響は限定されると考えられる。

表2-1-1 回答者と母集団の比較

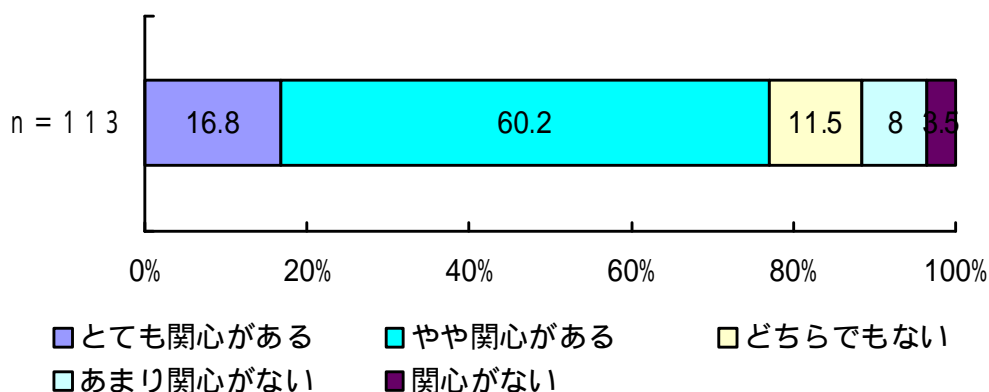
	男子	女子	無回答	計
回答者	35.4 (40)	62.8 (71)	1.8 (2)	100.0 (113)
湘南キャンパス 学生	51.3 (1747)	48.7 (1656)	- (-)	100.0 (3403)

(注) 母集団は湘南キャンパス 2011.10 末時点である。

2.2 学生のエコに対する関心

(1) エコ関心度

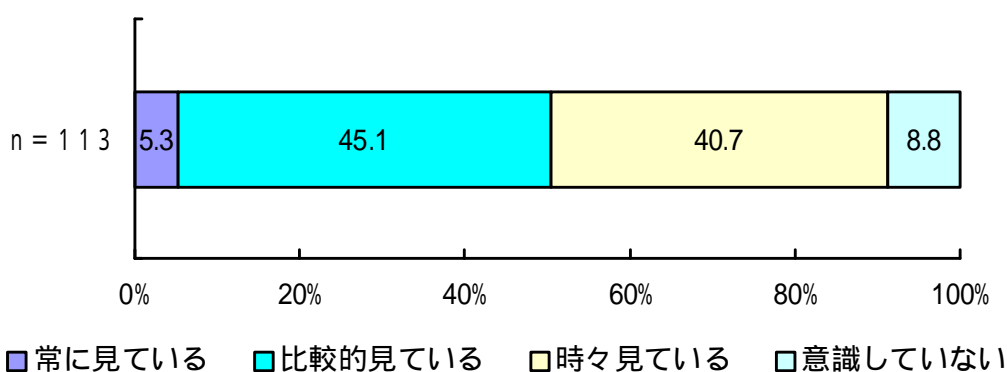
図2-2-1 エコへの関心



あなたはエコに対してどの程度関心がありますかという質問に対して、77%の人が関心があると回答した。「やや関心がある」と回答した人が約60%と最も多かった。また、「とても関心がある」と回答した人が約17%と次いで多かった。関心がないと回答した人は約12%であった。湘南キャンパスの学生の回答者の多くが、エコに対して関心があることがわかった。

(2) メディアによる情報収集

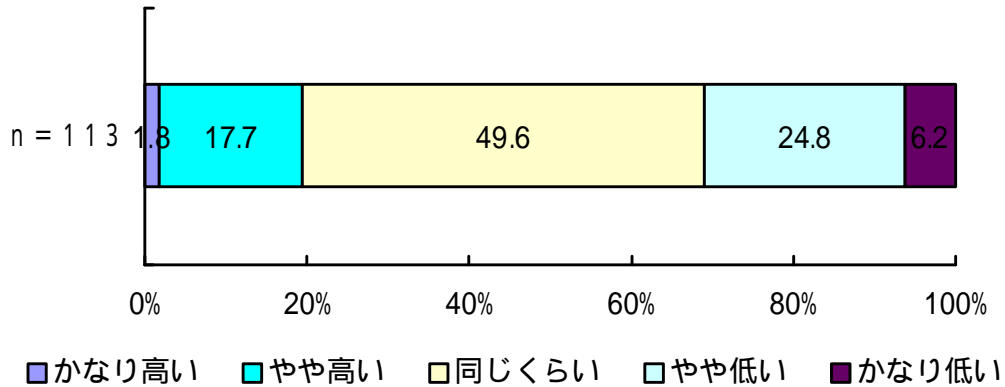
図2-2-2 メディアの報道での情報収集



メディアの報道で環境問題の情報を得ていますかという質問に対して、少なくとも報道を見ているという人は全体で、約91%であった。最も多かったのは、「比較的見ている」の約45%であった。興味の無い人は約9%と、少数であった。

(3) エコ意識の水準

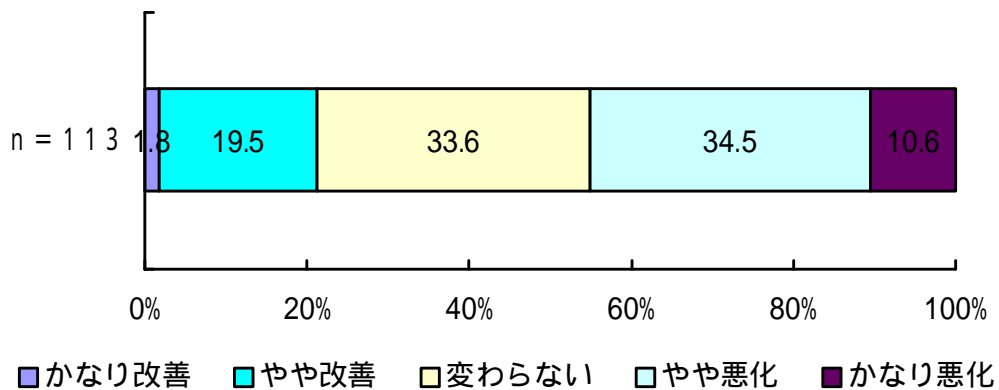
図2-2-3 他人に比べてのエコ意識の水準



他人に比べてあなたのエコ意識はどのくらいの水準ですかという質問に対して、「同じくらい」と回答した人が最も多く約50%であった。他人よりも高いと回答した人が約20%、低いと回答した人が約30%であった。

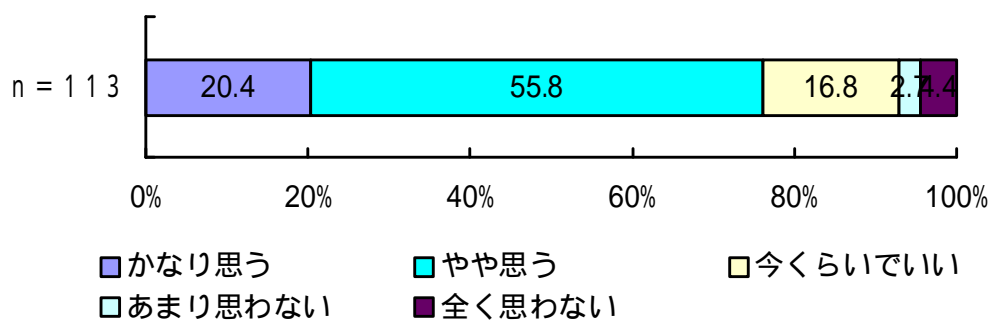
(4) 今後のエコ活動への意向

図2-2-4 地球環境の改善への期待



今後、地球の環境は今より改善されると思いますかという質問に対して、「やや悪化」という回答が約35%と最も多かった。今より改善されると思っている人は約21%とあまり多くはないようだ。エコに対する意識や関心は高いのに、地球の環境改善に関してはネガティブに考えている人が多かった。

図2 - 2 - 5 今後のエコ行動の意向

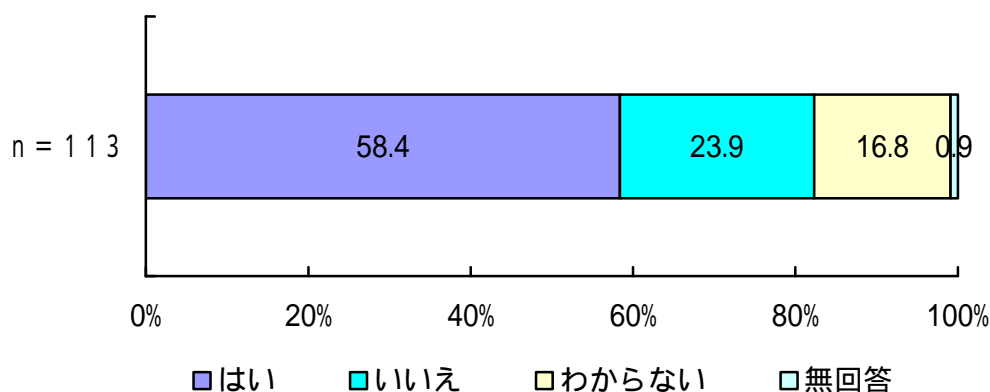


今後、さらに積極的にエコ行動を行いたいと思いますかという質問に対して、思うと回答した人が約76%と、かなり前向きに考えている人が多かった。

2.3 東日本大震災とエコ

(1) 震災後のエコ意識

図2 - 3 - 1 東日本大震災後のエコ意識



あなたは3月11日東日本大震災後、エコに対する意識は高まりましたかという質問に対して約58%の人が「はい」と回答した。

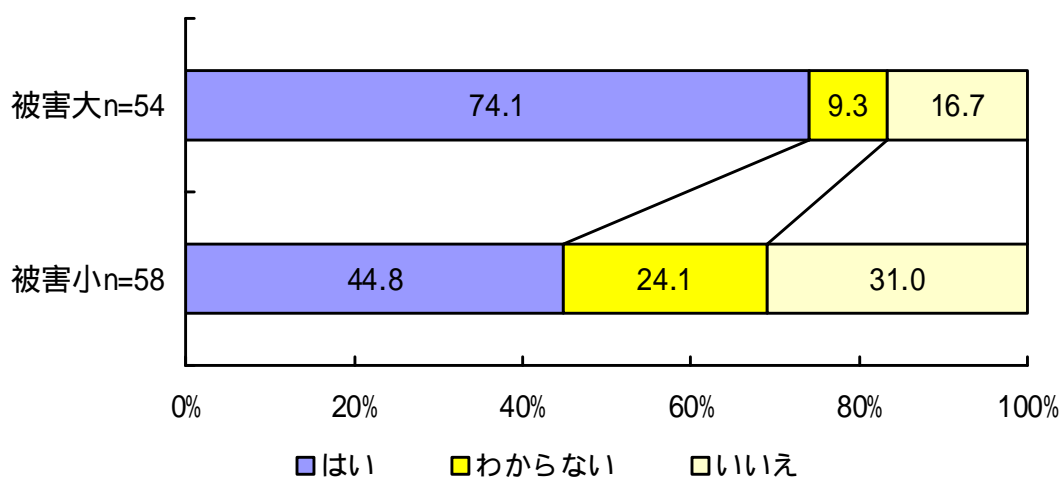
(2) 震災による被害

回答者に東日本大震災による被害の度合いをいくつか質問し、地震の揺れによる恐怖、あなた自身の身体的な被害、交通の不便、計画停電での不便を1～4の度合い(1.被害大～4.被害なし)で回答を得た。

これら4項目の被害の度合いを合計し、最も被害の大きい人は合計値16で、最も被害

の小さい人は合計値4であった。そして、この合計値を使って震災の被害大グループと被害小グループに2区分した。その結果、被害大のグループは54人、被害小のグループは58人であった。

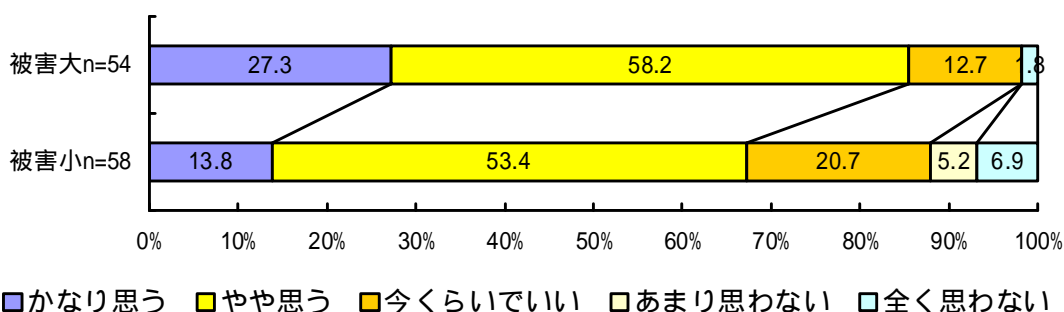
図2-3-2 震災の被害とエコ意識の高まり(2乗:p=0.006)



被害大グループと被害小さいグループ毎に、震災後エコ意識が高まったかどうかの集計を行った。震災の被害が大きい人で、震災後エコ意識が高まったと回答した人は約74%であった。また、震災の被害が大きい人で、震災後エコ意識が高まっていないと回答した人は約17%であった。震災の被害が小さい人で、エコ意識が高まったと回答した人は約45%、高まっていないと回答した人が約31%であった。震災によって回答者の約80%が計画停電を体験したりと、不便をすることでエコに対する意識が高まったようだ。そして、震災の被害は、学生たちのエコ意識を大幅に高めた。

(3) 震災被害と今後のエコ活動

図2-3-3 震災被害と今後のエコ活動



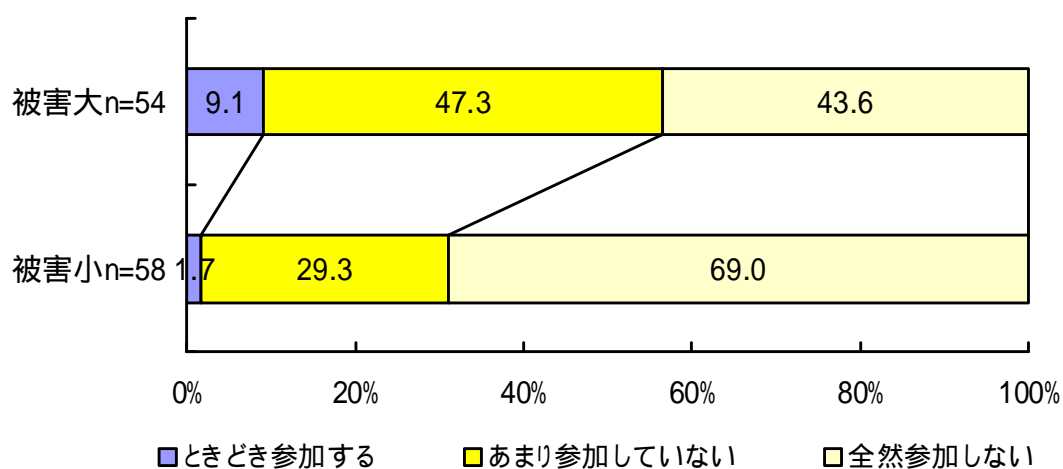
被害大グループと被害小グループ毎に、今後さらに積極的にエコ活動をしたいかを集計した。被害大グループで今後積極的にエコ活動をしたいと答えた人は約86%であった。

被害小グループよりも被害大グループのほうが、エコ活動に対して積極的な姿勢が見られた。

(4) 震災被害とボランティア参加

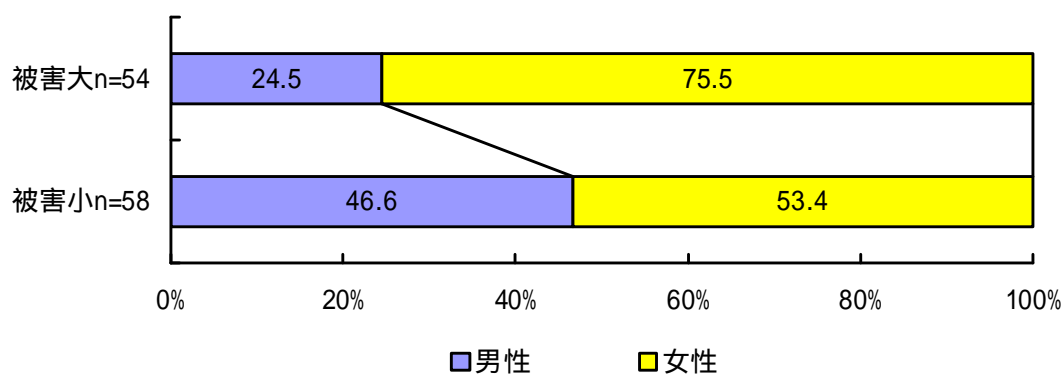
被害大グループと被害小グループとボランティア参加度を集計した。最も大きかった値は被害が小さくボランティアに全然参加しない人で69%であった。

図2 - 3 - 4 震災の被害とボランティア参加(2乗:p = 0.014)



(5) 震災被害と男女

図2 - 3 - 5 震災の被害と男女(2乗:p = 0.013)



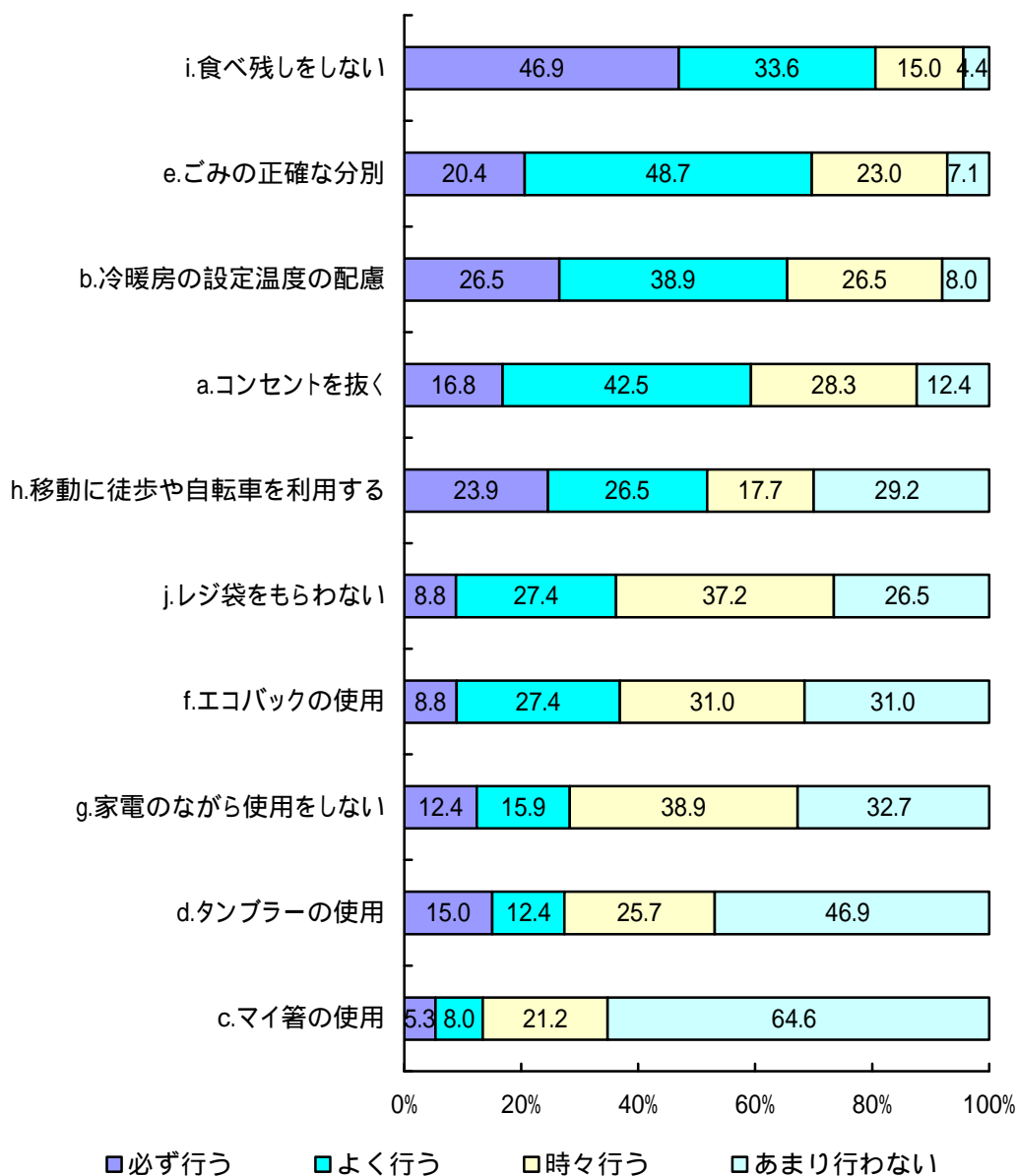
被害大グループと被害小グループ毎に、性別と集計をした。最も大きかったのが被害の大きい女性であった。男性に比べて女性のほうが被害視する傾向にあるといえる。

2.4 エコ行動と目的

(1) エコ行動の度合い

普段どのようなエコ行動を行っているかを調べた結果が図2-4-1である。

図2-4-1 取り組んでいるエコ行動の度合い

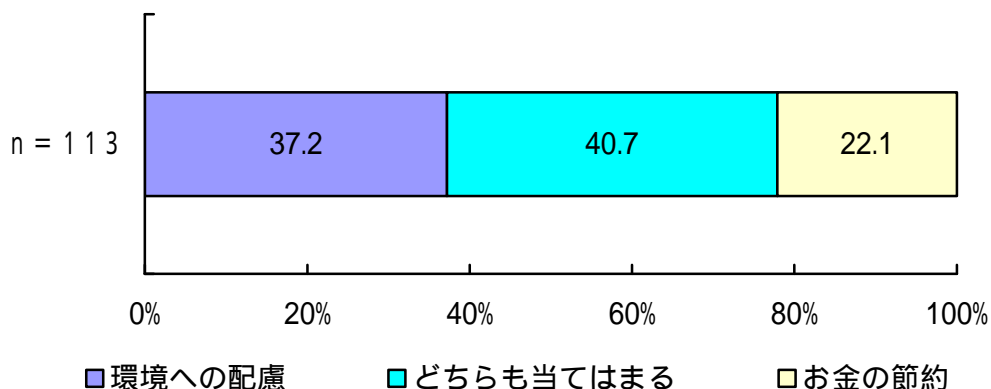


普段行っているエコ行動で、食べ残しをしないと答えた人が最も多かった。続いてごみの正確な分別、冷暖房の設定温度配慮、コンセントを抜く人が多かった。タンブラーやマイ箸は学生ではエコ行動としてあまり普及していないようだ。

(2) エコ行動の目的

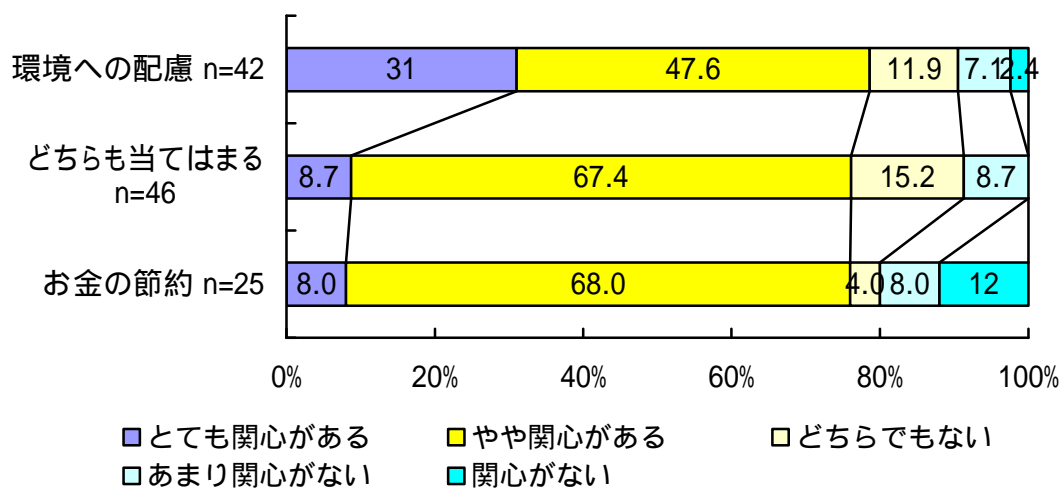
あなたのエコ行動の目的はどちらですかという質問に対して、「環境への配慮」と回答した人が約 37%、「お金の節約」が約 22%、「どちらでもない」が最も多く約 41%であった。同じエコ行動でも、環境への配慮か節約で目的は人によって異なるようだ。

図 2 - 4 - 2 エコ行動の目的



(3) エコ行動の目的とエコ関心度

図 2 - 4 - 3 エコ行動の目的とエコ関心度



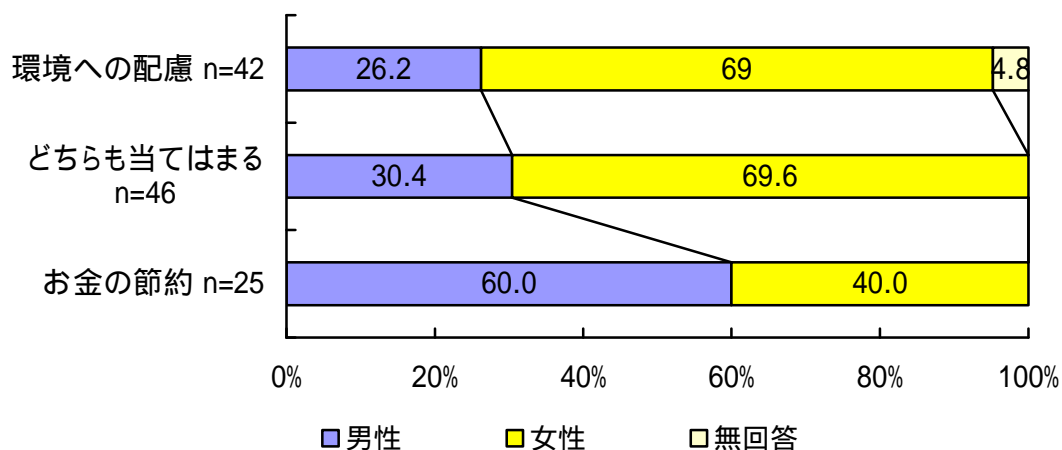
エコ行動の目的とエコ関心度の集計を行った。エコ行動の目的が環境への配慮でエコにとても関心があると回答した、エコに関してとても意識の水準が高い人が 31%いた。

(4) エコ行動の目的と男女

エコ行動の目的が環境への配慮と回答した女性が 69%で、お金の節約と回答した男性が 60%であった。このことから、女性は環境への配慮のためにエコ行動し、男性はお金

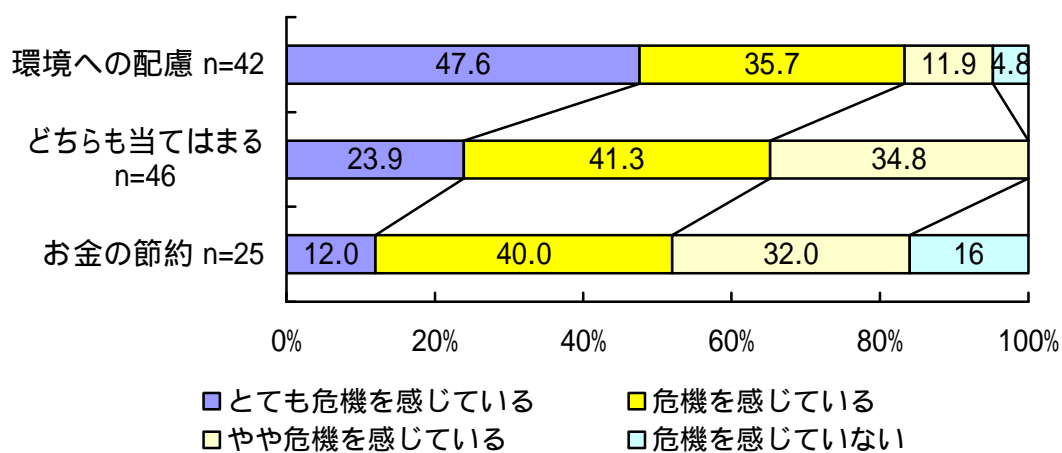
の節約のためにエコ行動をする傾向にあると言える。

図 2 - 4 - 4 男女間のエコ行動への目的



(5) エコ行動の目的と地球温暖化危機感

図 2 - 4 - 5 エコの目的と地球温暖化進行への危機感



エコ行動の目的と地球温暖化に対する危機感を集計したところ、上の表のようになった。エコ行動の目的が環境への配慮と答えた人で、地球温暖化に対してとても危機を感じている人が最も多く約 48% だった。

第3章 まとめと今後の課題

全体的に回答者の文教大学湘南キャンパスの学生は、「エコ」というものに対して、高い意識を持っているようであった。3月11日に起こった東日本大震災によって、揺れによる恐怖、交通や電気の不便などを体験し、さらにエコに対する意識は増したようだ。さらに、震災によって大きい被害のあった人たちは、地域のボランティア活動などに参加している割合が高く、今後はさらにエコ活動をしたいという意向が見られた。

エコ行動の目的は、環境への配慮とお金の節約で人それぞれ異なり、女性は環境への配慮のためにエコ行動し、男性はお金の節約のためにエコ行動をする傾向にあることがわかった。また、地球温暖化の進行に危機感を持っている人は、環境の配慮のためにエコ行動を行っている割合が高いことがわかった。

今後について、地球の環境は今と変わらないか、悪化している人が多いにもかかわらず、さらに積極的にエコ行動をしようと思っている人が多い。地球に対してネガティブに考えているが、これ以上地球を悪化させたくないという前向きな姿勢が学生に対して感じられた。しかし、まだエコに対して何も考えていない人がいるみたいなので、今後の人類の課題としては一人でも多くエコに対して意識を持つ人を増やす取り組みをするべきであると考えた。

今回の調査の反省としては、単純な回答の質問が多く、高度な集計に挑戦できなかったことである。また、調査に向けた仮設も、調査後に集計すると良い結果が得られないものが多かったので、次回では的を得る仮設を出せるよう取り組んで行きたいと思う。

参考文献

- ・ NetMile リサーチ「環境&エコ意識についての調査レポート」
http://research.netmile.co.jp/voluntary/2011/pdf/201103_1.pdf#search
- ・ Wiki ペディア
<http://ja.wikipedia.org/wiki/>

エコ意識の調査 単純集計表

2011.10

情報学部広報学科「社会調査」星野一樹

「社会調査」のための調査です。無記名ですので率直にお答えください。

問1 あなたはどの程度エコに関心がありますか。(1つに)n=113

1. とても関心がある 16.8	2. やや関心がある 60.2	3. どちらでもない 11.5
4. あまり関心がない 8.0	5. 関心がない 3.5	

問2 3月11日東日本大震災後、エコに対する意識は高まりましたか。(1つに)n=113

1. はい 58.4	2. いいえ 23.9	3. わからない 16.8	4. 無回答 0.9
------------	-------------	---------------	------------

問3 地震の直接的な揺れに恐怖を感じましたか。(1つに)n=113

1. 強い恐怖を感じた 37.2	2. 恐怖を感じた 34.5
3. やや恐怖を感じた 23.9	4. 恐怖を感じていない 4.4

問4 あなた自身に何か被害はありましたか。(1つに)n=113

1. 大きな被害があった 3.5	2. 被害があった 16.8
3. やや被害があった 23.9	4. なかった 54.9

問5 家族や親類に身体的な被害はありましたか。(1つに)n=113

1. 大きな被害があった 0.9	2. 被害があった 7.1	
3. やや被害があった 7.1	4. なかった 84.1	5. 無回答 0.9

問6 震災の影響で交通に関して何か不便をしましたか。(例：帰宅難民になった)(1つに)n=113

1. とても不便だった 37.2	2. 不便だった 25.7
3. やや不便だった 15.9	4. 不便をしていない 21.2

問7 あなたは東日本大震災による電力不足対策の「計画停電」で不便をしましたか。(1つに)n=113

1. とても不便だった 30.1	2. 不便だった 28.3
3. やや不便だった 21.2	4. 不便をしていない 20.4

問8 あなたは原子力発電についてどう思いますか。(1つに)n=113

1. 絶対にやめてほしい 15.9	2. やめてほしい 29.2
3. できるだけやめてほしい 45.1	4. やめる必要はない 8.8
5. 無回答 0.9	

問9 あなたがそれぞれの環境問題に対する危機感の具合を教えてください。(それぞれ1つに)n=113

	とても危機を感じている	危機を感じている	やや危機を感じている	危機を感じていない
A. 地球温暖化の進行	30.1	38.9	25.7	5.3
B. 生物多様性の後退	14.2	37.2	34.5	14.2
C. 公害の発生	30.1	36.3	26.5	6.2
D. 資源不足の進行	26.5	48.7	23.0	0.9

問10 あなたのエコ行動の目的はどちらですか。(1つに)n=113

1. 環境への配慮 37.2	2. お金の節約 22.1	3. どちらも当てはまる 40.7
----------------	---------------	-------------------

問11 環境に関するイベントに参加しますか。(1つに)n=113

1. よく参加する 0.9	2. ときどき参加する 4.4
3. あまり参加していない 37.2	4. 全然参加しない 57.5

問12 環境に関するボランティアに参加しますか。(1つに)n=113

1. よく参加する 0.0	2. ときどき参加する 5.3
3. あまり参加していない 38.1	4. 全然参加しない 56.6

問13 親から「食べ残しをしてはいけない」などの「もったいない意識」など、エコに関してのしつけを受けていましたか。(1つに)n=113

1. 常に言われていた 27.4	2. よく言われていた 38.9
3. ときどき言われていた 30.1	4. 言われていない 3.5

問14 あなたが取り組んでいるエコ行動の度合をそれぞれ教えてください。(それぞれ1つに)n=113

	必ず行う	よく行う	時々行う	あまり行わない
A. コンセントを抜く	16.8	42.5	28.3	12.4
B. 冷暖房の設定温度の配慮	26.5	38.9	26.5	8.0
C. マイ箸の利用	5.3	8.0	21.2	64.6
D. タンブラーの利用	15.0	12.4	25.7	46.9
E. ごみの正確な分別	20.4	48.7	23.0	7.1
F. エコバック使用	8.8	27.4	31.0	31.0

G.家電のながら使用の回避 (例:テレビを見ながらインターネットを見ない)	12.4	15.9	38.9	32.7
H.移動に徒歩や自転車を利用する	23.9	26.5	17.7	29.2
I.食べ残しをしない	46.9	33.6	15.0	4.4
J.レジ袋をもらわない	8.8	27.4	37.2	26.5

問15 下記の点でのあなたの考え方を教えてください。(それぞれ1つに)n=113

	そう思う	ややそう 思う	何とも言え ない	あまりそう は思わない	そうは思 わない
A.鯨などの知能の高い動物を殺してはならない。	31.0	22.1	28.3	8.8	9.7
B.社会における人の絆を強める必要がある。	42.5	42.5	12.4	2.7	0.0
C.経済競争は社会進歩には重要である。	30.1	46.9	21.2	1.8	0.0
D.経済のグローバル化への対応は積極的に進めるべきだ	40.7	38.9	18.6	1.8	0.0

問16 メディアの報道で環境問題の情報を得ていますか。(1つに)n=113

1.常に見ている 5.3	2. 比較的見ている 45.1
3. 時々見ている 40.7	4. 意識していない 8.8

問17 他人に比べてあなたのエコ意識はどのくらいの水準だと思いますか。(1つに)n=113

1.かなり高い 1.8	2. やや高い 17.7	3. 同じくらい 49.6
4. やや低い 24.8	5. かなり低い 6.2	

問18 今後、地球の環境は今より改善されると思いますか。(1つに)n=113

1.かなり改善 1.8	2. やや改善 19.5	3. 変わらない 33.6
4. やや悪化 34.5	5. かなり悪化 10.6	

問19 今後、さらに積極的にエコ活動を行いたいと思いますか。(1つに)n=113

1.かなり思う 20.4	2. やや思う 55.8	3. 今くらいでいい 16.8
4. あまり思わない 2.7	5. まったく思わない 4.4	

問20 あなたは日々の生活で自分が忙しいと思いますか。(1つに)n=113

1. とても忙しい 16.8	2. 比較的忙しい 42.5
3. あまり忙しくない 38.1	4. 暇である 2.7

問21 アルバイトをしていますか。(1つに)n=113

1. している 77.0	2. していない 22.1	3. 無回答 0.9
--------------	---------------	------------

問22 性別を教えてください。(1つに)n=113

1. 男性 35.4	2. 女性 62.8	3. 無回答 1.8
------------	------------	------------

問23 血液型を教えてください。(1つに)n=113

1. A 31.9	2. B 19.5	3. AB 10.6	4. O 33.6
5. わからない 2.7	6. 無回答 1.8		

問24 学科を教えてください。(1つに)n=113

1. 広報 26.5	2. 経営情報 5.3	3. 情報システム 0.9	4. 国際理解 1.8
5. 国際観光 63.7	6. 健康栄養 0.0	7. 無回答 1.8	

問25 出身を教えてください。(1つに)n=113

1. 北海道 0.9	2. 東北 13.3	3. 関東 58.4	4. 中部 18.6
5. 近畿 1.8	6. 中国 1.8	7. 四国 0.0	8. 九州 1.8
9. 沖縄 0.0	10. その他 1.8	11. 無回答 1.8	

問26 現在住んでいる状況を教えてください。(1つに)n=113

1. 実家暮らし 44.2	2. 一人暮らし 47.8	3. その他 6.2	4. 無回答 1.8
---------------	---------------	------------	------------

調査は以上です。ご協力ありがとうございました。